

國學院大學学術情報リポジトリ

妙光寺蔵屏風の修復と下張文書の資料化： 地域住民・学生による保存と活用への取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩崎, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001922

妙光寺蔵屏風の修復と下張文書の資料化

― 地域住民・学生による保存と活用への取り組み ―

岩崎優子

1 はじめに

平成23年5月に大分県速見郡日出町に所在する妙光寺の倉庫に保管してあった義白上人墨書屏風を拝見した際、教育活動に役立て、可能であれば修復してほしいとのご住職の希望を受け、六曲一隻を國學院大學博物館学研究室で、六曲一双を日出町の歴史と文化を考える会（以下日出町の会と記す）で預かり修復を行った。学生及び日出町の会は下張文書を剥がし、骨格のみにする作業、損傷が特にひどい下張文書の裏打ちをし、解体により発生した下張文書の整理は大学院生の有志が行った。本稿は平成23年から現在に至るまでの屏風修復と下張文書の整理と活用について報告するものである。

2 妙光寺蔵屏風の由来

妙光寺の所在する大分県速見郡日出町は、慶長6年に木下延俊が日出藩主として入国して以来、明治に至るまで木下氏が治めてきた土地である。日出藩は二万五千石を所領、小藩ながら居城である日出城（別名陽谷城）は別府湾を背景にした堅固な城であった。日出城下には日出湊があり、城下カレイなどの特産品が水揚げされる他、瀬戸内海を通じて大坂など各地と交易が盛んに行われていた。

妙光寺は慶長11年に恒川十右衛門が建立し、慶長16年に亡くなった初代住職日立聖人より現在まで続く日蓮宗の寺である。屏風の墨書を書いた義白上人（雲臥名は日浄）は妙光寺の19代住職で、明和8（1771）年に豊後の鶴崎で生まれ、12歳で僧となった後、中国で学び、帰国後は京都深草の瑞光寺で6年住職として過ごしている。豊後に戻り杵築の妙経寺、日出の月光寺、妙光寺を経て文政3（1820）年頃に現在大分県杵築市山香の立石に所在する延隆寺の住職となり、また妙光寺に戻り、文政7（1824）年8月21日に54歳で没している。漢詩を好み、書道に通じ、学の高い人物であったという。儒学者・理学者であり、日出藩の家老職も担った帆足万里と交流が深く、帆足万里は義白上人の書を「変動神のごとし」と評した。帆足万里の文章の中に義白上人の名前がよく見られ、妙光寺にある義白上人の墓石には帆足万里による漢詩が刻まれている。それによると誤解されやすく頑固な人物であったようだ。書の名人であったが、竹を割って筆とし、紙を用いることは珍しく、小板片を拾って書いていた為、その手蹟や漢詩を伝えるものはほとんど見つかっていない。義白上人の書を伝えるものとして、日出町の歴史を考える上でもこの屏風は貴重なものといえるだろう。

義白上人の墨書屏風は六曲一双と六曲一隻が残っているが、境内の倉庫のコンクリートの地面に直接

置かれていた。屏風の裏面や背は鼠の糞尿で紙がもろくなり、虫の食害、糞による汚れなどが目立ったが、墨書が書かれた本紙は比較的綺麗な状態で残っていた。二点の屏風のうち、六曲一隻の屏風は金箔が散らされた鳥の子紙の上張に紺色か深緑色の裂が四方に張られ、裏側にはしっかりした紺色の雀型、縁取る漆塗りの枠には六点の屏風金具が取り付けられた豪華な仕立てであった。一方六曲一双の屏風は墨書の本紙こそ同じ紙と思われるが、上張の和紙は薄く脆く、枠は漆塗りであるが金具はなく、紺色の雀型が裏に貼られていたもののこちらも大変脆い和紙で、全体的に簡素な仕立てであった。作業を進めるにあたり、豪華な仕立ての屏風をA屏風、簡素な仕立てをB屏風と呼ぶことにした。A屏風は現在半隻が失われているが、元々六曲一双の屏風であり、昭和43（1968）年に日出町で開催された明治百年博覧会に春夏秋冬を表す六曲一双の屏風として出品されている。その後庫裏を建て替えた際に半隻が失われた様子である。昭和43年頃には展示できる状態であったが、収蔵場所の変化、移動などにより痛み、展示に耐えられる状態ではなくなったと考えられ、最近は寺でも展示されることはなかった。B屏風については寺以外で展示された情報はなく、共に長い時間倉庫で保管されていた。

大学や地域住民の教育や研究に役立て、可能であれば再び展示ができるようにしてほしいとのご住職の希望により、A屏風は國學院大學博物館学研究室で預かり大学生や大学院生が、B屏風は日出町の会がそれぞれ修復をすることとなった。

3 屏風の解体・修復

修復の手順は①現状の撮影および記録、②記録を取りながら解体、③本紙や骨格のクリーニング及び仮保管、④組み立ての大きめに4つに分けられる。

妙光寺より預かった屏風は先にも述べたとおり鼠や虫による食害、糞尿による汚損が激しく、枠の漆も剥げている部分が多かったため、当初は新しい屏風を仕立て、本紙を張りこむ予定であった。預かった屏風はまず平成23年度中に筆者一人で撮影と記録をし、本紙のみを剥がし、クリーニングし、裏打ちを行った。裏打ちした本紙は現在の気候や室内の条件に慣らすため、仮張り板に貼り半年以上寝かせた。新しい屏風を仕立てる上でも現状の屏風の構造や作られた年代を調べるべく、屏風本体の解体をすることにした。



A 屏風



B 屏風



A 屏風の下張剥離作業



B 屏風の下張剥離作業

A 屏風

A 屏風は平成24年から具体的な解体・修復を開始した。國學院大學博物館学研究室で預かった為、学部4年生の博物館実習Ⅳや大学院生の専門・特殊実習を履修する学生に解体、クリーニング、組み立てに参加してもらうことになった。博物館実習Ⅳはシラバスに沿って授業が進み、箱結びや資料の取り扱いなどの方法を身に付ける時間と、拓本や裏打ちなど作業を行う時間があり、作業を行う実習の際にその日の内容が早く終わった学生に手伝ってもらった。

手順として、まず六曲ある屏風を紙蝶番の部分でそれぞれの面で分け、上張を剥がし、下張を一枚一枚剥いだ。下張の文書は古文書を読める学生がだまかな内容で分け、今後の郷土研究を行う際、調べやすいよう仮に封筒に入れ保管した。下張は何層にも張り重ねられているが、それぞれの層を剥ぐ際、写真撮影をし、状態を記録することにも注意を払った。

預かった屏風は骨格に面する下張のみ柿渋を用いており、その他の面と違い剥がすことが非常に困難であった。これらの骨格に張り付いて千切れてしまった下張を中心に裏打ちの実習の際に実践として裏打ちをしてもらった。

下張を骨格からはがしにくくしていた柿渋であるが、その防虫効果により骨格の四隅こそ脆くなっているものの、ほとんどは虫害に遭っておらず綺麗な状態であった。すべての下張を剥がし終え骨格のみにした結果、十分利用できる骨格であったため、可能な限り仕立てられた当初の素材を利用することが好ましいと考え、隅の弱っている部分を補強し、この骨格に新しい紙を重ね屏風として仕立てていくことにした。骨格に反故紙を張り重ねる作業を行い、襖状になったところで学部生の作業は終了した。

B 屏風

B 屏風は日出町の歴史と文化を考える会(以下日出町の会と記す)がA 屏風と同様の工程で修復を行った。集まった有志は中学生から70代までの日出町民を中心に10名ほどで、元々は日出城下の絵地図や写真を片手に街歩きをし、現代に残る共通点を探し歴史の変化を学ぶ活動を3~4月に一回程のペースで行っていた。特別屏風に詳しい者はおらず、屏風の修復もこれが初めてであった。したがって平成24年からの國學院大學での修復の様子を撮影した写真などを見てイメージを深め作業にあたった。大学の実習と違い作業ができる広い場所がいつも使えるわけではなく、またそれぞれの予定が合わず、まとまっ

た時間に集中して作業をすることは難しかった。更に大学では授業で使った残りの正麴糊や廃棄する和紙の切れ端などを使っていたが、それらも自分たちで用意しなければならなかった。

実際の作業は平成24年の夏から始め、場所は会のメンバーで個人塾を営む笠崎まゆ氏の教室を使わせてもらい、塾がないお盆休みの間に行った。街歩きをしていた元々のメンバーに笠崎氏の塾の生徒の中学生、その家族や近隣住民が加わり初回は12～3名の参加となった。まず修復に欠かせない正麴糊を一から作った。小麦粉を水で洗いグルテンとデンプンに分け、デンプンと水を鍋で炊いた。正麴粉を購入し正麴糊を作ることも出来たが、伝統的な表装は天然素材で成り立っていることと、正麴糊だからこそこれから行う屏風の解体作業がスムーズに進むことを理解してもらうための作業だった。その後屏風を写真撮影、スケッチし、それに破損箇所を細かく書き込み、上張を剥がし、下張を一枚一枚剥がしていった。主に中学生が下張を剥がし、大人が軽く汚れを落とし、下張の文字をわかる部分だけでも読み、内容や形態によって大まかに分けて封筒に入れた。

B屏風は骨格に柿渋が使われた形跡はなかったが、こちらの骨格も虫害等があまりないきれいな状態であり、洗浄してそのまま和紙を張り重ねていくことにした。メンバーが習字の書き損じなどを持ち寄り骨格に糊で張っていたのだが、習字などで使われる紙は水を付けると慎重に扱わなければ破れるものが多く、元々の下張だった江戸時代の和紙の頑丈さに感心するメンバーが多かった。和紙だけでなく、江戸時代ならではの角がある四角い釘やその釘を抜けにくくするため酢につけて錆びさせていたことなど現在の違いや江戸時代の職人の工夫についても感心し興味を持ったようである。B屏風もA屏風同様襖状になったところで一先ず作業を終えた。少しずつの作業であったため、六曲がすべて襖状になるまでに一年半かかった。

4 下張り文書の整理と保存

AとBの屏風を解体し1200点を超える下張り文書（断簡含む）が出てきたが、富籤開催の知らせや貸付の証文、日出藩の参勤交代の一面が窺える史料など日出町の郷土史の中でもあまり研究されていない人々の暮らしがわかる文書がとりわけ多かった。きちんと整理し保存することが望ましいと考え、友人で古文書に造詣が深い鎌形慎太郎氏に相談し、博物館学研究室の大学院生有志にも参加してもらい



大学院生の古文書講座の様子



文書の整理作業

整理作業を行った。

私を含め大学院生も古文書を読める学生は僅かであったので、文書の整理作業に入る前に下張文書のなかでも珍しいものを何点か選び、それを題材に鎌形氏に古文書講座の開催をお願いした。下張以外にも基本的な古文書解説を学習し、文字として認識できるようになったところで整理作業を開始した。

A屏風、B屏風の下張り共に改めてクリーニング作業を行い、内容ごとに分けた。A屏風は日出町西教寺の富籤関連の文書が大部分を占め、他は金銭出納覚などの金銭関係の文書、書状が多数であり、「雑」と分類したその他の文書が僅かにあり4種類に分けた。A屏風の下張は屏風に張り込むために切断されたものが多く、その断簡の多くは断簡同士で関連性を見つけることが困難であった。それに対しB屏風の下張文書は切断されたものがA屏風より少なく、特に藩士の文書は殆どが全紙で張っており、参勤交代に関するものも見つかった。藩士の文書のほか金銭や書状、医療、家作、雑、戸口、藩士の7種類に分けることができた。文書群として分類したうえで番号を付し調査カードに記入をした。調査方法も引き続き鎌形氏に教授いただいたが、原題はともかく補題をとることに苦労した。調査カードに記入した後は中性紙封筒に入れ、調査カードの内容をパソコンに入力し目録を作成した。この作業を通して下張に使われた文書の年代に100年ほどの開きがあることがわかった。屏風の下張は基本的には屏風を注文した施主が用意することが多いが、そうでない場合は屏風を仕立てる表具師が調達していた。下張文書の内容から、おそらくこの屏風では後者であったと推測される。

5 屏風および下張文書の活用

屏風の公開

平成24年の夏に新しい下張を張り終え襖状になっていたA屏風を筆者が屏風として仕立てた。元の上張が鳥の子紙に金箔が散らされた豪華なものだったので、可能な限り似た紙を探し、張り込む布や枠飾りの金具を揃え、解体した時のメモと本による知識、表装用品を扱うお店の方に聞いた話などを総合し少しずつ作業を進め、本紙を張り完成したのは12月になった。妙光寺には大晦日の除夜の鐘と新春の初祈祷に間に合わせるため送り、平成24年の12月30日から本堂に飾られ、お参りに来た方に見ていただくことができた。最初に拝見し預かってから一年半以上経ちようやく一隻だけではあるが修復した状態で



日出町での古文書講座



妙光寺で公開されたA屏風



富籤A-1 覚（日出西教寺富籤取極覚）



富籤A-5（富札渡覚帳四千番台）



医療B-1（豊後日出藩耕雲斎調合家方清気丸薬包紙）



藩士B-1 覚（足輕佐伯伝蔵荷物代請取覚）

返却することができた。

現在は、本堂の中に保管され、大晦日・新年の法要の他にも人が多く集まるときに公開されているようである。

下張文書の活用

下張文書は近世の日出の様子を伝えるもので、大変興味深いものであることから、資料整理をした際に大学院生を対象にした古文書講座で教材に使った他、鎌形氏を日出町にお招きし、日出町の会に対し同様の講座開催をお願いした。会のメンバーは普段の街歩き活動で今も残る古いものを見つけ歴史を考えてはいたが、実際に現在も残る地名や人名などが文書の中から出てくると江戸時代の人々がより一層身近に感じられ、郷土への愛着も深まったと口々に感想を述べていた。

古文書講座の後に鎌形氏を交えて本来の活動である街歩きをしたが、メンバーの視点がこれまでと違ってきた。寺社の石碑や石柱、鳥居などをみては年号を確認するようになり、地名にも注目するようになった。文書にかかれていた城下町の暮らしが現代にも残る道や地名と重なり、街歩きの活動がより充実したものになったのである。

6 おわりに

妙光寺住職の提案により大学生や大学院生のほか日出町の住民が地域資料を解体、修復、活用をすることができた。日出町の歴史を知らない東京の大学生と日出町の会では同じ作業をしていても反応が全く違い、大変興味深いものであった。大学生は博物館学芸員を目指すにあたって学習した内容をより深める実物資料として、実習での練習用の資料とは違い失敗の許されない本物の資料の扱い方の実践として、緊張感をもって接する学生が多かった。一方日出町の会メンバーは歴史資料を取り扱う心得そのものが乏しく、作業開始時は埃にまみれた屏風の扱いに困惑していたが、下張の文書から地名や金額等の読める文字を見つけると、その内容を想像しそれをメンバーと共有することで屏風や文書への興味がわいているようだった。前者は取り扱いに注意を要する資料として、後者は自分たちの町の郷土資料として認識し扱っていた。

A屏風の下張には富籤についての詳細がわかる文書があり、これは大学生、大学院生、日出町の会の皆が大いに興味を持っていた。しかしA屏風の半隻は失われており、失われた半隻にも富籤の内容や更に関心深い文書があった可能性を考え、失われてしまったことを嘆いた。持て余している価値のありそうな古いものは安易に捨てず詳しい人に相談することを日出町の会の共通認識とした。手を加えれば今回の妙光寺の屏風が屏風と地域資料として復活したように、現代の私たちにとって何倍もの価値を持つ可能性があるからである。

大学で行ったA屏風の修復は完了したが、まだB屏風の半隻の仕立てが残っており、半隻はまだ手付かずの状態で保管してある。これらは引き続き日出町の会ではB屏風の修復を行う予定である。それと並行して少しでも文書の内容がわかるようになるために古文書の読み方を学び、書を書いた義白上人やその友人であり日出藩の家老も務めた学者の帆足万里についても理解を深める活動をしたと考えている。

本調査に惜しめない協力を頂いた鎌形慎太郎氏をはじめ大貫涼子氏、榊潤彰太郎氏、高橋恵美氏、小川勇樹氏、他大学院生有志、博物館実習4の学部生、日出町の歴史と文化を考える会、そして掲載の機会を頂いた内川隆志先生のおかげでこうして報告として纏めることができました。厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 大竹義則 編『暘城人物伝』 日出町立万里図書館 1971
- 高橋英義『近世日出の文化』上巻 1976
- 日出町役場『日出町誌』 1986
- 古賀了介『帆足万里先生詩集』上 1989
- 古賀成文『帆足万里先生詩集』下 2002

元國學院大學助手

妙光寺蔵義白上人墨書屏風下張文書目録 凡例

本目録は、妙光寺蔵義白上人墨書屏風の下張から発見された文書を整理し目録化したものである。下張文書の性質から年代がわからないものが多く、年代順での分類が困難であった為、内容別に分類した。下記の整理統一事項に従って整理、公表するものとする。

目録の項目は、文書群、史料番号、年代、表題、差出、宛先、形態、数量、備考とする。なお、下張文書の性質から不明の項目があるものも多く、その場合空欄にしている。

【文書群】

- ・ 富籤関係資料は富籤、金銭出納覚や注文覚等々金銭に関わるものは金銭等、文書の内容により分類した。

【史料番号】

- ・ 原則として、個々の史料一点ずつに番号を付し、中性紙の封筒に収納した。
- ・ 内容が完全に同じものは纏め、数量に点数を記載した。
- ・ 内容が同一であることが明らかであるが、形状が異なるものは枝番を付した。

【年代】

- ・ 和暦と西暦を算用数字で示した。

【表題】

- ・ 表題は原則として原表題とし、原題が無い文書については内容に応じて補題を付した。判読不明文字は□とした。補題は（ ）で表記している。
- ・ 文書として全体の解読が困難ではあるが、ある程度文章がわかるものを断簡とし、一括で扱い数量を記載した。
- ・ 断簡よりさらに小さく、文章がわからないものを紙片一括とし、数量は記載していない。
- ・ 旧字、異体字、変体仮名は人名など固有名詞を除いて常用漢字やひらがなに変換した。

【差出】【宛先】

- ・ 差出人・宛先共に、複数で同じ住所だった場合原則として一名のみを記し、残りは「他何名」とした。住所等の記載がない場合は全員記載している。
- ・ 印章は㊥と表記する。角印も同様の表記とした。

【形態】

- ・ 形態がわかるものは状、横帳、鋪（絵図）とした。状の中でも切紙、続紙であることが明らかなものは切紙、続紙と記した。

【数量】

- ・ 史料一点ずつを分類しているため基本的には1であるが、同一の主題のもの、断簡一括は合計点数を記した。数詞は省略した。

【備考】

- ・ 裏打、破損の程度、他文書との対応などを記した。

文書群	番号	年代	西暦	原題（補題）	差出（作成）	宛先	形態	数量	備考
富籤	A-1	享保20年卯年4月	1735	覚（日出西教寺富籤取極覚）	西教寺㊤			12	裏打済
富籤	A-2	享保20年卯年4月	1735	覚（日出西教寺富籤取極覚）	西教寺㊤			44	一部破損、裏打ち済
富籤	A-3	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳千番台）				3	裏打済
富籤	A-4	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳三千番台）				3	裏打済
富籤	A-5	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳四千番台）				9	裏打済
富籤	A-6	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳五千番台）				2	裏打済
富籤	A-7	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳六千番台）				9	裏打済
富籤	A-8	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳七千番台）				2	裏打済
富籤	A-9	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳八千番台）				4	裏打済
富籤	A-10	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳番号混合）				7	裏打済
富籤	A-11	享保20卯年	1735	（西教寺富籤札捌書上）				4	裏打済
富籤	A-12	享保20卯年	1735	（左官源右衛門西教寺宛書状）			切紙	1	裏打済
富籤	A-13	享保20卯年	1735	（八坂蔵助書状）				1	裏打済
富籤	A-14	享保20卯年	1735	（西教寺富籤下町机場売捌書上）				1	裏打済
富籤	A-15	享保20卯年	1735	富札渡覚帳（表紙）				3	裏打済
富籤	A-16-1	享保20年卯年4月	1735	覚（日出西教寺富籤取極覚）	西教寺㊤			25	裏打済、断簡で大きい取極覚
富籤	A-16-2	享保20年卯年4月	1735	覚（日出西教寺富籤取極覚）	西教寺㊤			5	裏打済、断簡で小さい取極覚
富籤	A-17	享保20年卯年4月	1735	覚（日出西教寺富籤取極覚）	西教寺㊤			22	未裏打
富籤	A-18	享保20卯年	1735	（富札渡覚帳）				16	未裏打
書状	A-1	8月6日		（吉野屋庄吉宛残暑伺書状）	別府野口より隆助	改戌新町 吉野庄吉殿	状	1	裏打済
書状	A-2	7月24日		（暑中御見舞）	□□□慎助	□光平三郎様		1	裏打済
書状	A-3	7月10日		（改戌吉野屋庄吉宛書状片）	萬屋隆助	吉野屋庄吉様		1	裏打済
書状	A-4			（残暑伺書状）				1	裏打済
書状	A-5			（妻病氣二付見舞書状）				1	裏打済
書状	A-6	9月15日		（平三郎宛書状）	久右衛門	平三郎様		1	裏打済
書状	A-7			（裏打書状一括入）				15	裏打済
書状	A-8			（書状断簡一括）				102	
書状	A-9			（書状紙片一括）					
金銭	A-1			（金銭出納覚大切一括裏打済）				21	裏打済
金銭	A-2			（金銭出納覚中切一括・裏打済）				13	裏打済
金銭	A-3			（金銭出納覚一括短冊切・裏打済）				7	裏打済
金銭	A-4			（米・小麦・大豆等相場書上）				1	裏打済
金銭	A-5			（吉野屋より弁天丸和吉殿へ魚・菓子等注文覚）	吉野屋	弁天丸和吉殿	切紙	1	裏打済
金銭	A-6			（金銭出納等一括・大）				136	
金銭	A-7			（金銭出納等一括・中）				140	
金銭	A-8			（金銭出納等断簡一括・大片）					
金銭	A-9			（金銭出納等断簡一括・小片）					
金銭	A-10			（米・木綿・魚等代金出納覚）				5	
金銭	A-11			（まな板・七ツ入子等預り覚）				1	
金銭	A-12			（砂糖・魚・筵代出納覚）				1	
金銭	A-13			（辰年二月分筵・素麺・炭等預り覚）				1	
金銭	A-14	天保5年7月18日	1834	覚（金五両手付受取覚）	油布院平村隆助他一名㊤、中依村又三郎	吉野屋庄吉様		1	
金銭	A-15	8月6日		覚（金五両受取覚）	油布院平村隆助他一名㊤	よしのや 庄吉様	切紙	1	
金銭	A-16			覚（金三両余延引二付覚）			切紙	1	
金銭	A-17			（見世勘定出納覚）				1	
金銭	A-18			預り手形（金子一両他預り手形）				1	
金銭	A-19			（辰暮頼母子金出納）				1	
金銭	A-20			（巳ノ年日用賃出納）				1	
金銭	A-21			（寅ノ年引分金出納）				1	
金銭	A-22			（人名書上）				1	
金銭	A-23			（金銭受取覚紙片）				1	裏打済
雑	A-1			（諸道具帳表紙片）				1	裏打済

文書群 雑	番号	年代	西暦	原題(補題)	差出(作成)	宛先	形態	数量	備考
	A-2			(反故紙手習等紙片一括)				2	
医療	B-1			(豊後日出藩耕雲齋調合家方清気丸薬包紙)	豊後日出 横町 伊豆蔵屋庄吉、 八日市町 竹屋 来太郎		状	4	
医療	B-2			(豊後日出藩耕雲齋調合補気調血湯薬包紙)	豊後日出 横町 伊豆蔵屋庄吉、 八日市町 竹屋 来太郎		状	1	
医療	B-3			(小児主葉蒼龍丸引札)	本家弘所 江戸 本郷鋤町 山崎 文蔵、取次弘所 大嶋屋市郎兵衛、 江戸屋平八		状	1	
医療	B-4			(無二膏引札)	京都車屋町通二条 下町 雨森良意		状	1	
書状	B-1	11月29日		書状(馳走二付伊豆蔵屋家内へ挨拶状)	まち分	いつくらや 御 おば様	状	1	
書状	B-2	8月17日		(南部屋宛書状)		南部屋 三五郎 様	状	1	
書状	B-3	10月29日		(注文品書状)	備前屋茂作	伊豆蔵屋 庄左 衛門様	状	1	
書状	B-4	6月21日		(大坂到着安気二付書状)	備前屋太兵衛	伊豆倉屋 政治 郎様	状	1	破損甚大
書状	B-5	7月13日		(樽屋宛書状)	タルヤ 文蔵	伊豆倉屋 庄左 衛門様	状	1	二つに割か れている
書状	B-6	9月22日		(とみ杵喜四郎奉公世話二付書状)	とみ	日出 伊豆蔵屋 庄吉様	状	1	
書状	B-7			(遊女書状)	ますこ	御婦様	状	2	
書状	B-8	12月25日		(伊豆倉屋宛書状)	常照寺	伊豆倉屋庄左衛 門様	状	1	
家作	B-1			(口上之覚断簡一括)			状	7	
家作	B-2			乍恐御歎奉申上口上之覚(与兵衛出奔二付借用手代銀延引之趣嘆願書)			続紙	1	後欠
金銭	B-1			仕切(銀五拾式分仕切書)	木屋佐兵衛㊤	伊豆蔵屋 吉之 助様	切紙	1	
金銭	B-2			(金銭出納帳 断簡一式)			横帳	19	
金銭	B-3	己年2月4日		目録(博労町中梅西萬諸品卸所諸品荷合目録)	大和屋政治郎㊤	伊豆倉屋 荘右 衛門様		5	
金銭	B-4			口上之覚(下町定兵衛宿手形差上二付口上)				1	
金銭	B-5	9月11日		納付(米六十八石二升納付覚)	花方新左衛門㊤、 中野仙蔵㊤	御勘定所	状	1	
金銭	B-6	酉年9月8日		納付(酉年米二十石納付調差上二付覚)	花方新左衛門㊤、 糸永弥右衛門㊤	御勘定所	状	1	
金銭	B-7			(銀四十七匁出納覚)		穀倉村	切紙	1	
金銭	B-8			(萌黄金蘭等仕切金覚)	中柳町 糸屋	伊豆倉屋様	切紙	1	
金銭	B-9			(木材ノ二百三十六匁内訳書)			切紙	1	
金銭	B-10			(量注文品請取覚)	量屋□助	伊豆倉屋様		1	
金銭	B-11	8月		仕切(銀百六拾目三分仕切覚)	木屋 佐兵衛㊤	伊豆倉屋吉之助様	切紙	1	
金銭	B-12	寛政3亥年8月	1791	(廻米多二付仲仕飯米拝借言政)	中仕支配 熊七 ㊤	前田又市殿㊤、 工藤源内殿㊤、 須藤周助殿㊤、 浅野十兵衛殿㊤	状	1	
金銭	B-13	寛政3亥年8月	1791	(御登石物御蔵入賃米請取証文)	中仕支配 熊七 ㊤	前田又市殿㊤、 工藤源内殿㊤、 須藤周介殿㊤、 野野十兵衛殿㊤	状	1	
金銭	B-14	9月3日		覚(諸品注文覚)	木屋 佐兵衛㊤	いつくらや 様	状	1	
金銭	B-15	9月20日		覚(諸品代銀三十拾匁五分注文覚)	板引屋 友蔵	伊豆蔵屋庄吉様	状	1	
金銭	B-16			覚(代銀請取覚)	庄屋 儀平	伊豆倉屋様	状	1	
金銭	B-17			覚(小間物注文覚)			状	1	
金銭	B-18			覚(日出町居住者姓名書上)			状	1	
金銭	B-19	12月20日		覚(厚板置物等代銀三十三匁請取覚)	萱屋	伊豆倉屋様	状	1	

文書群	番号	年代	西暦	原題(補題)	差出(作成)	宛先	形態	数量	備考
金銭	B-20	巳年		覚(昆布四メ受取)	魚屋	いつくらや庄右衛門	切紙	1	
金銭	B-21	9月15日		覚(銀十七匁七分受取覚)	川屋	いつくらや様	状	1	
金銭	B-22	2月10日		覚(篠わた注文覚)	三左衛門	いつくらや様	状	1	
金銭	B-23			覚(紙注文覚)			状	1	
金銭	B-24			覚(世話代銀覚)			切紙	1	
金銭	B-25			覚(人形之首・ぞうり等書上覚)			切紙	1	内容は芝居関係か
金銭	B-26	卯年6月		覚(銀拾壹匁受取)	大坂 小西屋勘兵衛	伊豆蔵屋庄右衛門様	切紙	1	
金銭	B-27	丑年2月27日		覚(銀二十三匁二分受取覚)	康之介	伊豆蔵屋様	切紙	1	
金銭	B-28	巳年七月		覚(銀百三拾三匁受取覚)	土水屋 利蔵	伊豆倉屋 庄右衛門様	切紙	1	
金銭	B-29	2日		覚(銀二十四匁八分受取覚)	和多屋 太助	政四郎様	状	1	
金銭	B-30	10月26日		覚(金屋定兵衛より勘定覚)	金屋 定兵衛	伊豆倉屋 庄右衛門様	状	1	
金銭	B-31	辰年12月18日		覚(松枝代銭上納覚)	紀澤屋九兵衛㊤、志保屋長左衛門㊤	御郡所	状	1	
金銭	B-32	酉年正月22日		覚(黒砂糖、座綿、干瓢代銀購買)	魚屋	伊豆倉屋様	状	1	
金銭	B-33			覚(諸色注文覚)	久助	伊豆蔵屋正助様	状	1	
金銭	B-34	11月		覚(銀貳拾八匁注文覚)	魚門屋 勘七	伊豆蔵屋庄左衛門様	切紙	1	
金銭	B-35			覚(諸色注文覚)	魚門屋 勘七	伊豆倉屋様	状	1	
金銭	B-36			覚(小間物注文覚)			状	1	
金銭	B-37	12月		覚(米注文注文覚)		いつくらや 庄吉様	状	1	
金銭	B-38			覚(水引紙注文書)			切紙	1	
金銭	B-39			覚(銀五匁注文代銀覚)	イツ蔵	安右衛門様	切紙	1	
金銭	B-40			覚(諸色注文覚)	大坂 近利㊤	伊豆蔵や庄左衛門様	状	1	
金銭	B-41	子年7月		覚(酒注文覚)	酒場	伊豆倉屋	状	1	
金銭	B-42	巳年6月		覚(小間物注文覚)	松嶋屋		状	1	
金銭	B-43	7月5日		覚(小間物注文覚)	源兵衛	いつくらや庄左衛門様	状	2	
金銭	B-44	卯年5月8日		覚(銀七百四十二匁余請取覚)	魚屋	いつ蔵屋様	状	1	
金銭	B-45	卯年3月		覚(銀十二匁出納覚)	久助	伊豆蔵屋様	状	1	
金銭	B-46	2月5日		覚(染地三反代銀覚)	大坂屋 李史郎	伊豆蔵屋庄左衛門様	切紙	1	
金銭	B-47	卯年秋		覚(注文代銀二十三匁覚)	中屋吉兵衛	伊豆倉屋御店様	切紙	1	
金銭	B-48	巳年7月		覚(銀五拾目請取覚)	油屋 吉三郎㊤		切紙	1	
金銭	B-49	2月15日		覚(蘭麻代銀覚)	萬屋	伊豆蔵屋庄右衛門様	状	1	
金銭	B-50			覚(杉・小豆代銀覚)	忠次郎	いつくらや様	切紙	1	
金銭	B-51	巳年12月		覚(萬屋より代金出納覚)	萬屋	小松屋 七右衛門様	切紙	1	破損甚大
金銭	B-52	9月11日		覚(諸荷積送覚)	金屋 定兵衛	伊豆蔵屋庄左衛門様	状	1	
金銭	B-53			覚(注文代銀覚)		伊豆蔵屋正助様	状	1	破損甚大
金銭	B-54			覚(盛入皿等小間物注文覚)			状	1	
金銭	B-55	7月11日		覚(九百四拾匁出納覚)	大津や 己之助	備前屋 茂作様	切紙	1	
金銭	B-56			覚(竹差込等メ二十四匁注文覚)		いつくらや様	状	1	書状断簡添(内容は無関係)
金銭	B-57			覚(厚板等代銀覚)			状	1	破損甚大
金銭	B-58	9月28日		覚(銀四十九匁受取覚)	新□	伊豆倉屋 庄吉様	状	1	
金銭	B-59			覚(杉丸太注文覚)	豊後日出南横町 萬屋	伊豆蔵屋様	切紙	1	
金銭	B-60			覚(火除長袖・並火除メ二十五枚覚)			状	1	
金銭	B-61			覚(小間物注文覚)		伊豆倉屋庄左衛門様	状	1	
金銭	B-62	極月		覚(芝居用机注文覚)	大のや 庄平	芝居屋庄右衛門様	切紙	1	
金銭	B-63	10月23日		覚(煙草入・根付・煙管等注文覚)	佐蔦屋	政八郎様	状	1	

文書群	番号	年代	西暦	原題(補題)	差出(作成)	宛先	形態	数量	備考
金銭	B-64	巳年極月		覚(大坂傘等注文覚)	古川 □□	伊豆倉屋庄右衛門様	状	1	
金銭	B-65			覚(大芝居通札四千六百七十枚代金覚)			切紙	1	
金銭	B-66	子年7月		覚(正酒注文覚)	道古屋	伊豆倉屋庄左衛門様	状	1	
金銭	B-67	9月		覚(極上油等注文覚)	□澤清 安兵衛	伊豆倉屋 正左衛門様	状	1	
金銭	B-68	正月29日		覚(注文代銀覚)	萬屋 久兵衛	伊豆倉屋庄兵衛様	状	1	
金銭	B-69	7月6日		覚(掛糸等注文代銀覚)	青野屋		切紙	1	
金銭	B-70	巳年6月		覚(糸・箱・扇等注文覚)	□屋 久□	伊豆倉屋庄介様	状	1	
金銭	B-71	巳年12月		覚(横町角広敷等出納覚)	上角 萬屋	伊豆蔵屋庄左衛門様	切紙	1	
金銭	B-72	7月3日		覚(簞掛板注文覚)	吉野屋	伊豆蔵屋	切紙	1	
金銭	B-73	巳年4月20日		覚(小倉男帯等引合覚)	谷屋	伊豆蔵屋正助様	状	1	
金銭	B-74	卯年極月		覚(材木代金覚)	万屋	伊豆蔵屋様	切紙	1	
金銭	B-75	巳年8月		覚(材木注文覚)	萬屋	伊豆蔵屋様	切紙	1	
金銭	B-76			(塩・米等代銀書上)			状	2	
金銭	B-77			(諸品注文代銀覚)			状	23	
金銭	B-78			(金銭出納等断簡一括)				137	
金銭	B-79			(金銭出納帳断簡一括)				115	
金銭	B-80	12月20日		口上(物品受取口上覚)	嶋屋 重右衛門	いつ蔵屋 庄吉様	状	1	
金銭	B-81	正月29日		(御家内様御勇健ニ付祝詞書状)	出雲屋 巳之助		状	1	出雲屋関連書状 B- 82 と対応
金銭	B-82	巳年8月18日		覚(銀四十一匁六分請取覚)	出雲屋	伊豆蔵屋様	状	1	出雲屋関連書状 B- 81 と対応
金銭	B-83			請取申御米之事(米二百二拾石)			状	1	破損甚大
雑	B-1	天保13壬寅年12月	1842	(豊後国下町市諸商人覚)			状	6	
雑	B-2			(書状断簡一括)				32	
雑	B-3			(手習反故紙一括)				9	
雑	B-4	天保9戌年	1838	(戌年七月書上帳表紙断簡)				1	
雑	B-5			(往来もの紙片一括)				77	
雑	B-6	卯年9月16日		再応御調ニ付奉申上口上之覚(増右衛門方ニ而座踊ニ付見物人調書口上)	横町庄左衛門	横町与惣右衛門殿、他四名	状	1	
雑	B-7	戌年		(御通表紙)	仲野屋 伊平治	日出 伊豆倉屋庄吉様	状	1	
雑	B-8	13日		(殿様御祭り出入店舗書上)			状	1	
雑	B-9	天保10巳亥年8月21日	1839	三味線代控				1	表紙のみ
雑	B-10			(屋敷平面図)			鋪	1	
雑	B-11	6月29日		(諸品書上覚)	喜助	伊豆蔵屋庄左衛門様	状	1	
雑	B-12			(伊助取調答書)			状	1	
雑	B-13	天保13年12月	1842	(木挽桶・紙細工賃銭取極覚)			状	1	前欠
雑	B-14			(献立書上)			状	1	
戸口	B-1			奉指上人別之覚			状	1	後欠
戸口	B-2			奉指上病人手形之事(日出寺壇病人手形)			状	7	
藩士	B-1	子年6月28日		覚(足輕佐伯伝蔵荷物代請取覚)	入江弥右衛門㊤	中根源三郎殿、坂部十太夫殿	状	1	
藩士	B-2	子年12月		覚(足輕小頭二人分米一石四斗請取覚)	坂西七郎左衛門㊤	後藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-3	子年6月27日		覚(道中旅籠代銭一貫九百六十八文請取覚)	入江弥右衛門㊤	中根源三郎殿、坂部十太夫殿	状	1	
藩士	B-4	辰年6月3日		覚(江戸御供ニ付俸禄米之内大豆二斗請取覚)	八田半兵衛㊤	後藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-5	丑年6月24日		覚(参勤交代ニ付銀壹貫百目請取覚)	浅井十左衛門㊤	工藤兵助殿、奥井弥兵衛殿	状	1	
藩士	B-6	子年6月		覚(道中旅籠代銀一貫九百六十八文請取覚)	竹中作兵衛㊤	中根源三郎殿、坂部十太夫殿	状	1	
藩士	B-7	辰年12月17日		覚(足輕三人旅勤ニ付米四十四斗三升六合九文請取覚)	平井一郎左衛門㊤	後藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	

文書群	番号	年代	西暦	原題（補題）	差出（作成）	宛先	形態	数量	備考
藩士	B-8	宝暦2申年7月	1752	借用仕銀之事（金銀七拾六匁七分七厘借銀証文）	高橋伊左衛門㊤、馬場久米衛門㊤、平岡弥右衛門㊤	御貸方	状	1	
藩士	B-9	酉年4月2日		覚（御小性扶持米一石四斗五升請取覚）	加藤庄太夫㊤	豊嶋左近右衛門殿	状	1	
藩士	B-10	辰年12月		覚（御普請御待弓足輕旅勤御免二付米一石四斗九升四合六石請取覚）	八田安左衛門㊤		状	1	
藩士	B-11	子年6月		覚（参勤交代御供二付銀百十五匁請取覚）	漆部利右衛門㊤	工藤兵助殿、奥井孫兵衛殿	状	1	
藩士	B-12	卯年12月12日		覚（米一石四斗請取覚）	坂部十太夫㊤	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-13	亥年11月29日		證文之覚（銀四百五拾五匁借用証文）	三倉屋 紋治郎	庄左衛門殿	状	1	
藩士	B-14	辰年8月21日		覚（大豆一斗御取替二付請取覚）	丸右門㊤	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-15	辰年8月		覚（大豆一斗御取替二付請取覚）	村上官左衛門㊤	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-16	申年3月17日		覚（銀札四拾目借用覚）	丸市兵衛㊤	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-17	申年3月		覚（銀札三拾貫借用覚）	田村蔵太㊤	河合重郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-18	寛政10午年3月	1798	覚（御家中口入銀不足二付銀札四百六拾目請取覚）	豊嶋左近右衛門㊤、河合十郎右衛門㊤	河野治右衛門殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-19	7月17日		覚（出産二付銀札三拾目請取覚）	三橋奎之丞㊤	中根源三郎殿、佐藤甚右衛門殿	状	1	
藩士	B-20	申年10月5日		覚（小兒不幸二付銀札三十五貫請取覚）	吉田卯兵衛 代判 手嶋利助㊤	奥井与兵衛殿、北本政右衛門殿	状	1	
藩士	B-21	寛政12申年11月22日	1800	覚（銀札三百目借用覚）	平井藤兵衛㊤	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-22	午年12月28日		覚（銀札取替二付二百目請取覚）	次田内蔵丞㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-23	寛政10午年12月27日	1798	覚（銀札取換二付百目請取覚）	中野増右衛門㊤、工藤兵助㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-24	寛政10午年12月17日	1798	覚（銀札取換二付四拾目請取覚）	田原善兵衛㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-25	申年3月19日		覚（銀札百目請取覚）	平井不二太㊤	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-26	午年12月25日		覚（銀一貫百六拾二匁五分請取覚）	安岐浦筵仲買㊤		状	1	
藩士	B-27	丑年10月		（借用覚の一部か）	宮嶋一右衛門㊤、石田源助㊤	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	前欠
藩士	B-28	申年3月19日		覚（口入銀三拾目借用覚）	小山田元蔵㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-29	巳年12月20日		覚（御取替銀五拾目借用覚）	石田源助㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-30	寛政9巳年11月	1797	覚（御取替銀貳百目借用覚）	手嶋利助㊤	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-31	酉年4月5日		覚（御取替銀百目預り覚）	豊嶋半之丞㊤	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-32	未年12月24日		覚（銀札貳百五拾目預り覚）	榎並喜左衛門㊤	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-33	午年4月		覚（銀札三拾目借用覚）	水谷吉郎右衛門㊤	宇都宮仁右衛門殿、立川尉平殿	状	1	
藩士	B-34	午年8月		覚（銀札百目借用覚）	十市又左衛門㊤	石田源助殿	状	1	
藩士	B-35	寛政11未年5月	1799	覚（銀札拾五匁借用覚）	□□安十郎㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-36	申年11月22日		覚（銀札二拾目取換覚）	河野□□㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-37	丑年6月24日		覚（大坂二而御船御用二付銀札五百十五匁二分請取覚）	宮内大助㊤	中根源三郎殿、佐藤甚右衛門殿	状	1	
藩士	B-38	3月		覚（松葉沓万式千三百九拾九把代銀納付覚）	灘手□屋幸助㊤	大橋友右衛門殿、今村瀧右衛門殿、後藤武助殿	状	1	
藩士	B-39	申年3月10日		覚（銀札二十目借用覚）	久米勇助㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-40	未年3月4日		覚（銀札百目預り覚）	加藤助右衛門㊤	奥井与兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-41	寛政11未年12月	1799	覚（銀札三百目預り覚）	河合十郎右衛門㊤	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-42	酉年3月9日		覚（御徒士五人扶持米一斗五升請取覚）	坂西七郎座左衛門㊤	加藤庄太夫殿、豊嶋左近右衛門殿	状	1	

文書群	番号	年代	西暦	原題(補題)	差出(作成)	宛先	形態	数量	備考
藩士	B-43	午年4月16日		覚(銀札五十目借用覚)	豊嶋左近右衛門 [㊟]	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-44	辰年12月		覚(米八石七斗二升六合五夕請取覚)	安岐佐右太 [㊟]	奥井与兵衛殿、河野治右衛門殿、立川大平殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-45	安永10年丑2月	1781	覚(燈籠修復二付銀札貳百目両千寺へ渡覚)	田原弥右衛門 [㊟]	中根源三郎殿、佐藤甚左衛門殿	状	1	
藩士	B-46	子年12月25日		覚(織野介様付人給米貳米請取覚)	矢野只合 [㊟]	奥井孫兵衛殿、宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-47	午年10月21日		覚(銀札六拾目御借入覚)	水谷吉郎右衛門 [㊟]	宇都宮仁右衛門殿	状	1	
藩士	B-48	辰年6月3日		覚(大豆四斗御取換二付請取覚)	佐藤甚右衛門 [㊟]	大原佐五右衛門殿、河合十郎右衛門	状	1	
藩士	B-49	辰年8月		覚(大豆一斗御取換二付請取覚)	加藤助左衛門 [㊟]	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-50	10月21日		覚(兼地長吉米七斗五升請取覚)	大原勘七 [㊟]	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-51	卯年10月22日		覚(渡部重兵衛等米四斗請取覚)	八田安左衛門 [㊟]	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-52	辰年2月19日		覚(御引換米二付証文)	宮部金之助 代判 大原勘七 [㊟]	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-53	卯年11月23日		覚(大豆四斗請取覚)	坂部十太夫 [㊟]	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	
藩士	B-54	酉年8月28日		覚(近松寺収納米覚)	中野仙蔵 [㊟]	御勘定所	状	1	
藩士	B-55	丑年2月11日		覚(大坂二而御船御用二付銀札五百二十目請取覚)	宮内大助 [㊟]	中根源三郎殿、他一名破損に付不明	状	1	
藩士	B-56	寛政2戌年11月7日	1790	(御物成船二而積登二付俵百七十五俵請取覚)	浅井十兵衛 [㊟] 、次藤周介	河野彦右衛門殿	状	1	
藩士	B-57			(日出藩喰扶持書上)				8	
藩士	B-58	(文政)9戌年9月	1826	(中原小頭請取通表紙)	磯矢岩之丞 [㊟] 、大嶋藤大夫 [㊟]		状	1	
藩士	B-59	文政8酉年12月	1825	足軽小頭・足軽旅勤増給請取通	御預り組 平井六左衛門 [㊟]			1	横半帳断簡表紙
藩士	B-60	子年11月26日		覚(役付中小性俸禄米五石請取覚)	須田内蔵允	佐藤甚右衛門殿、河合十郎右衛門殿	状	1	